

E.カールマン作曲 / ロベルト・ヘルツ演出

チャルダースュの女王

オペレッタ
全3幕

“チャルダースュの女王”と呼ばれる歌姫とオーストリアの貴族青年。身分違いの恋の紆余曲折が、ウィーンとブダペストを舞台に繰り広げられる。“オペレッタの神様”ルドルフ・ビーブルの指揮で、ふんだんに盛り込まれたチャルダースュ、ウィンナ・ワルツを、芸達者な歌手たちが歌い、踊り、魅せる！

J.シュトラウスII作曲 / ハインツ・ツェドニク演出

こうもり

オペレッタ
全3幕

“オペレッタの王様”にしてウィーン・オペレッタの最高傑作！何度観ても、何度聴いても、新鮮な魅力に出会える。めくるめくワルツやポルカに酔って、芸達者な歌手たちの演技に笑い転げてそして最後は「すべてはシャンパンのせいね」でメデタシめでたし！

F.レハール作曲 / マルコ・アルトゥーロ・マレッシ演出

メリー・ウィドウ

オペレッタ
全3幕

素直になれない男と女、浮気と本気が噛みあわない人妻と青年、パリの香り溢れるウィットや、「マキシム」の華やかな“カンカン” 男と女の恋の駆け引きの行方やいかに？世界で最も愛されているオペレッタ『メリー・ウィドウ』、圧倒的なご要望にお応えし、前回に続き再演決定！



“オペレッタの神様”ルドルフ・ビーブル



ウィーン・フォルクスオーパー総経ロベルト・マイヤー演じる“フロッシュ”



現代なら、ウィーンの貴族青年とブダペストの人気歌姫の結婚は、世間が注目する“セレブ婚”ですが、第一次世界大戦前夜のころは大違い。結婚の署名までしながら、エドウィンに婚約者がいたことを知ったシルヴァは、抗えない社会というものに落胆して自ら遠い地へと離れていきます。潔さと愛に生きるのがシルヴァなのです。一方エドウィンとはといえば、伯爵夫人と称して現れたシルヴァに、「それなら問題なく結婚できる！」なんて言ってしまい、シルヴァの怒りは爆発。「“チャルダースュの女王”に戻ります！」と宣言します。愛する気持ちはありながら、行き違い、もつれた二人の感情の糸は意外な展開で解決へ。誰もが笑顔になるハッピーエンドが待っています。



■主な出演
レオポルト・マリア伯爵：
ベーター・マティッチ
アンヒルテ：
マリア・ハッペル
エドウィン・ロナルト：
カールステン・ズュース (5/14,16)
ズザボルク・ブリクナー (5/15)
アナスタシア(シュタージ)：
ペアーテ・リッター (5/14,16)
マール・マシュタリール (5/15)
ロースドルフ男爵：
カール＝ミヒャエル・エブナー
ボニ・カンチャヌ伯爵：
マルコ・ディ・サビア (5/14,16)
ミヒャエル・ハヴリチェク (5/15)
フェリ・フォン・ケレケス(フェリ・パチ)：
アクセル・ヘック (5/14,16)
クルト・シュライプマイヤー (5/15)
シルヴァ・ヴァレスク：
アンドレア・ロスト (5/14,16)
ウルズラ・プフィツナー (5/15)
シギ・グロス：
ボリス・エダー
シャーンドル・フォン・キッシュ：
ダニエル・オーレンシュレーガー

■指揮：ルドルフ・ビーブル
ウィーン・フォルクスオーパー管弦楽団
ウィーン・フォルクスオーパー合唱団
ウィーン国立バレエ団
ウィーン国立歌劇場ステージオーケストラ

*表記のキャストは2015年10月25日現在の予定です。

CAST
Leopold Maria: Peter Matič
Annhilte: Maria Happel
Edwin Ronald:
Carsten Süß (14.5., 16.5.)
Szabolcs Brickner (15.5.)
Anastasia Komtesse Egenberg:
Beate Ritter (14.5., 16.5.)
Mara Mastalir (15.5.)
Eugen Baron Rohndorff: Karl-Michael Ebner
Boni Graf Káncsiánu:
Marco di Sapia (14.5., 16.5.)
Michael Havlicek (15.5.)
Ferenc Ritter Kerekcs, genannt Feri Bácsi:
Axel Herrig (14.5., 16.5.)
Kurt Schreimbayer (15.5.)
Sylvia Varescu:
Andrea Rost (14.5., 16.5.)
Ursula Pfizner (15.5.)
Siggi Gross: Boris Eder
Sándor von Kiss: Daniel Ohlenschläger

Dirigent : Rudolf Bibl
Chor, Orchester und Kompanier der Volksoper Wien
Wiener Staatsballett
Bühnenorchester der Wiener Staatsoper

大晦日の夜に繰り広げられる公爵邸の大パーティ。それぞれ偽名を名乗って出かけた夫婦だったが、夫が口説いたのは変装した妻！すべては、かつて夫が仕掛けたいはずから“こうもり”とあだ名されることになった男の仕返しだったのです。まんまと引っかかり、浮気の現行犯となった夫に、妻は「すべてはシャンパンの酔いのせいね」と許して暮。なんと深い愛！そして洒落ているではありませんか！



かの伝説の指揮者カルロス・クライバーがお気に入りだったのが、この「こうもり」。次々にワルツやポルカがくり出され、ジェットコースターに乗っているようなスリルを味あわせてくれます。そればかりか、ヨハン・シュトラウスII世の音楽の魔術で、人々の心を優しく温かくほぐしてくれます。『こうもり』は、何度観ても、何度聴いても、「こうじやくんちゃ！」と唸らせる極め付きの舞台。今回の日本公演では、いまや世界中の歌劇場で活躍するアンゲリカ・キルビシュラーガーがオルロフスキー役で登場することも大きな話題です。本拠地でも実現しない豪華な顔ぶれが揃って、魅力倍増です。

[上演時間:約3時間25分/休憩2回含む]

■主な出演
アイゼンシュタイン：
イェルク・シュナイダー (5/19,21)
カールステン・ズュース (5/20,22)
ロザリンデ：
メルバ・ラモス (5/19, 21)
エリーザベト・フレヒル (5/20, 22)
アデーレ：
アニヤ＝ニーナ・バーマン (5/19, 22)
レベッカ・ネルセン (5/20)
ペアーテ・リッター (5/21)
イーダ：
マルティナ・ドラーク
ファルケ：
マルコ・ディ・サビア (5/19)
マティアス・ハウスマン (5/20, 22)
ダニエル・オチョア (5/21)
オルロフスキー公爵：
アンゲリカ・キルビシュラーガー (5/19, 20, 22)
マルティナ・ミケリック (5/21)
アルフレート：
ライナートロスト (5/19, 20, 22)
ヴィンセント・シルマッハー (5/21)
フランク：
クルト・シュライプマイヤー (5/19, 21)
ダニエル・オーレンシュレーガー (5/20, 22)
プリント博士：
ボリス・エダー (5/19, 21)
カール＝ミヒャエル・エブナー (5/20, 22)
フロッシュ：
ロベルト・マイヤー

■指揮：アルフレード・エシュヴェ
ゲーリット・ブリースニッツ (5/21,22)
ウィーン・フォルクスオーパー管弦楽団
ウィーン・フォルクスオーパー合唱団
ウィーン国立バレエ団

*表記のキャストは2015年10月25日現在の予定です。

CAST
Eisenstein:
Jörg Schneider (19.5., 21.5.)
Carsten Süß (20.5., 22.5.)
Rosalinde:
Melba Ramos (19.5., 21.5.)
Elisabeth Flechl (20.5., 22.5.)
Adele:
Anja-Nina Bahrmann (19.5., 22.5.)
Rebecca Nelsen (20.5.)
Beate Ritter (21.5.)
Ida: Martina Dorak
Falke:
Marco di Sapia (19.5.)
Mathias Hausmann (20.5., 22.5.)
Daniel Ochoa (21.5.)
Orlofsky:
Angelika Kirchschräger (19.5., 20.5., 22.5.)
Martina Mikelić (21.5.)
Alfred:
Rainer Trost (19.5., 20.5., 22.5.)
Vincent Schirrmacher (21.5.)
Frank:
Kurt Schreimbayer (19.5., 21.5.)
Daniel Ohlenschläger (20.5., 22.5.)
Blind:
Boris Eder (19.5., 21.5.)
Karl-Michael Ebner (20.5., 22.5.)
Frosch: Robert Meyer
Dirigent: Alfred Eschwé (19.5., 20.5.)
Gerrit Priednitz (21.5., 22.5.)
Chor, Orchester und Kompanier der Volksoper Wien
Wiener Staatsballett

憎からず思っていないながらも本心を伝えあわないダニロとハンナ、浮気心をめぐるヴァランシェンヌとロシオン、二組のカップルの愛の攻防戦が繰り広げられる『メリー・ウィドウ』には、男と女の恋のテクニックがたっぷり盛り込まれています。男がじらせば女が燃える、女がじらせば男が燃えるといった展開は、最後には女の計略に男が本心を明かしてハッピーエンド！



このプロダクションは、舞台美術や衣裳の洗練された美しさなど、大人の恋の攻防戦に相応しいお洒落度満点！“メリー・ウィドウワルツ”の名で親しまれている甘く美しい調べにうっとりするよし、派手なカンカンに口笛を吹くもよし。4年前の日本公演で上演され大好評を博しましたが、それがテレビで放映されたこともあって、たくさんの再演希望が寄せられています。世界で最も愛されているウィーン・オペレッタ『メリー・ウィドウ』は、フォルクスオーパーが誇る絶対の自信作。今度はテレビ画面ではなく劇場で、はじけるような楽しさを一緒に体感し、大いに盛り上がりましょう！

[上演時間:約3時間/休憩1回含む]

■主な出演
ミルコ・ツェータ男爵：
アンドレアス・ミチュク (5/26, 28)
クルト・シュライプマイヤー (5/27, 29)
ヴァランシェンヌ：
ユリア・コッチャー (5/26, 28)
マール・マシュタリール (5/27, 29)
ハンナ：
ウルズラ・プフィツナー (5/26, 28)
カロリーヌ・メルツァー (5/27, 29)
ダニロ：
マティアス・ハウスマン (5/26, 28)
マルコ・ディ・サビア (5/27, 29)
カミーユ・ド・ロシオン：
ヴィンセント・シルマッハー (5/26, 28)
メルツァード・モンタゼーリ (5/27, 29)
カスカーダ子爵：
クリスティアン・ドレツシャヤー (5/26, 27)
ミヒャエル・ハヴリチェク (5/28, 29)
サンプリオシュ：
ロマン・マルティン (5/26, 27)
クリスティアン・ドレツシャヤー (5/28, 29)
ボグダノヴィッチ：
ヨセフ・フテンスタイナー
シルヴィアーネ：
マルティナ・ミケリック
クロモフ：
ダニエル・オーレンシュレーガー
オルガ：
マルティナ・ドラーク
プリチッチ：
カール＝ミヒャエル・エブナー
プラスコヴィア：
レグラ・ロジン
ニエグジュ：
ロベルト・マイヤー

■指揮：アルフレード・エシュヴェ
ウィーン・フォルクスオーパー管弦楽団
ウィーン・フォルクスオーパー合唱団
ウィーン国立バレエ団

*表記のキャストは2015年10月25日現在の予定です。

CAST
Baron Mirko Zeta:
Andreas Mitschke (26.5., 28.5.)
Kurt Schreimbayer (27.5., 29.5.)
Valencienne:
Julia Koci (26.5., 28.5.)
Mara Mastalir (27.5., 29.5.)
Hanna Glawari:
Ursula Pfizner (26.5., 28.5.)
Caroline Metzger (27.5., 29.5.)
Graf Danilo Danilowitsch:
Mathias Hausmann (26.5., 28.5.)
Marco di Sapia (27.5., 29.5.)
Camille de Rosillon:
Vincent Schirrmacher (26.5., 28.5.)
Mehrzad Montazeri (27.5., 29.5.)
Vicome Cascada:
Christian Drescher (26.5., 27.5.)
Michael Havlicek (28.5., 29.5.)
Rauul de St. Briche:
Roman Martin (26.5., 27.5.)
Christian Drescher (28.5., 29.5.)
Bogdanowitsch: Josef Luttensteiner
Sylviane: Martina Mikelić
Kromow: Daniel Ohlenschläger
Olga: Martina Dorak
Pritschitsch: Karl-Michael Ebner
Praskowia: Regula Rosin
Njegus: Robert Meyer
Dirigent : Alfred Eschwé
Chor, Orchester und Kompanier der Volksoper Wien
Wiener Staatsballett

フォルクスオーパーの3本のオペレッタで、上質なシャンパンで酔ったような幸福感を味わってください！